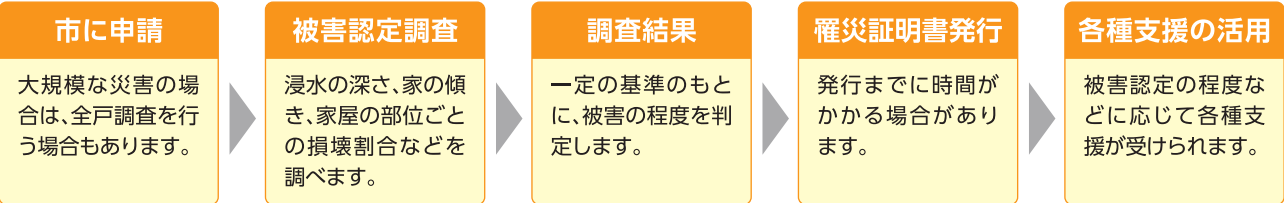


# もしも被災したときは

## 罹災証明書

災害により住宅が被害を受けた場合は、さまざまな公的支援を受けることができますが、その際、市が発行する「罹災証明書」が必要になります。また、火災保険や共済などの保険金を請求する際にも必要な場合があります。罹災証明書には、市が被害状況を調査し、一定の基準のもとに判定した被害の程度を記載しますので、必要な場合は調査と証明書の発行を申請しましょう。

### 「罹災証明書」発行までの流れ

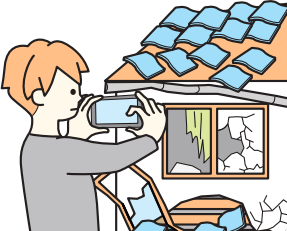


## 被害認定の目安 (水害による木造・プレハブの1～2階建て戸建ての場合)

| 被害の程度              | 損害割合           | 被害の状況                                  | 浸水深による判定            |
|--------------------|----------------|----------------------------------------|---------------------|
| 全壊                 | 50%以上          | 損壊がはなはだしく、補修により再使用することが困難なもの           | 住家の流失または床上1.8m以上の浸水 |
| 大規模半壊              | 40%以上<br>50%未満 | 半壊し、柱等の補修を含む大規模な補修を行わなければ、居住することが困難なもの | 床上1m以上<br>1.8m未満の浸水 |
| 中規模半壊              | 30%以上<br>40%未満 | 半壊し、壁、床又は天井の相当規模を補修しなければ、居住することが困難なもの  | 床上0.5m以上<br>1m未満の浸水 |
| 半壊                 | 20%以上<br>30%未満 | 損壊がはなはだしいが、補修すれば元通りに再使用できる程度のもの        | 床上0.5m未満の浸水         |
| 準半壊                | 10%以上<br>20%未満 | 住宅が半壊または半焼に準ずる程度に損傷したもの                |                     |
| 準半壊に至らない<br>(一部損壊) | 10%未満          | 上記に該当しないもの                             | 床下浸水                |

### 要注意 被災状況を写真で残しましょう

大規模な災害の場合、市の罹災証明書の発行には時間がかかります。被害認定調査を受ける前に、片付けや修復作業を始めるときは、被災した状況を写真撮影し、記録に残しておきましょう。正確な被害認定を受けられるように、さまざまな角度から、できるだけ多く撮影しておきましょう。また、外観だけではなく室内も撮影し、撮影日時の記録も残しておきましょう。



## 利用できる主な支援制度

- 被災者生活再建支援金
- 住宅の応急修理制度
- 災害援護資金
- 公共料金などの猶予・減免
- 災害弔慰金
- 応急仮設住宅

### コラム 災害に乗じた悪質商法・詐欺に警戒を!

大規模な災害が発生すると、混乱している被災者に「すぐに修理をしないと危険」などと不安をあおり、法外な工事代を請求するなど悪質な業者が増加します。契約する場合は内容をきちんと確認し、できれば複数の業者から見積もりをとるなど十分注意し、不要なものは断りましょう。

# いざという時のために そろえておこう

## 非常持出品

重すぎると避難に支障が出るのでコンパクトにまとめ、リュックタイプの袋に入れてすぐに取り出せるところに保管しておきましょう。

**貴重品**  
預貯金通帳、印鑑、健康保険証、免許証、現金(10円玉等)、家族写真(はぐれた時用)。

**充電器・予備電池**  
携帯電話の充電器。懐中電灯やヘッドライト、携帯ラジオの予備電池は多めに用意。

**水・食料**  
食べ物は乾パンやクラッカーなど火を通さずに食べられるもの。

**生活用品**  
衣類、雨具、ウエットティッシュ、タオル、ゴミ袋、レジャーシート、使い捨てカイロ。

**医薬品等**  
解熱剤・かぜ薬・胃腸薬などの常備薬、持病薬、予備のメガネやコンタクトレンズ、絆創膏。

**衛生用品**  
マスク、消毒液、液体せっけん、歯ブラシ、非常用トイレ、トイレットペーパー、生理用品など。

**避難用品**  
ヘルメットや防災ずきん、懐中電灯やヘッドライト、スリッパ、軍手、ホイッスル。

**携帯ラジオ**  
小型で軽く、AMとFMの両方聴けるもの。定期的に聴けるかチェックしておく。

**注意!** **非常用トイレを準備しよう**  
断水などでトイレが使えなくなる時を想定して非常用トイレを準備しましょう。洋式便器に排便袋をかぶせ、凝固剤を入れるものが便利。1人1日5回分が準備の目安。

## 家庭内備蓄品

災害時に住み慣れた自宅で生活するためにも、水や食料は、最低でも3日間、できれば1週間分を備蓄しておきましょう。

**水と食料**  
長期保存が可能で災害用の特殊な食品でなくても、常温保存ができ、賞味期限が長いものは備蓄に適します。

- 水／飲料水・調理用で1人1日3リットルが準備の目安。
- 缶詰・レトルト食品／肉・魚・豆・野菜の缶詰、カレーや丼などのレトルト食品、フリーズドライ食品など
- その他／梅干しや漬物、乾物、インスタント味噌汁、チョコレートなどカロリーの高いお菓子など。

**生活用品**  
家族にあわせて備蓄をしましょう。

- 高齢者／常備薬・持病薬、おむつなど
- 乳幼児／粉ミルク・液体ミルク、ほ乳瓶、おむつ、離乳食、体ふきなど
- ペット／ペットフード、水、トイレ用品(ペットシートや猫砂など)、キャリーバッグ、リードなど
- その他／目の悪い人は眼鏡・コンタクト、アレルギーのある人は自分に合う食べ物や薬、女性は生理用品など。

**ローリングストックを实践して簡単に備蓄**  
普段から食品を多めに買い置きして、日常の中で古いものから食べ、食べた分を買い足して、常に一定量の食品を家庭に備蓄しましょう。

**カセットコンロが便利**  
簡単な炊飯や調理にはカセットコンロが便利です。ボンベは多めに用意しておきましょう。

消費しながら備蓄する方法だよ

定期的に消費期限や必要な物を見直しましょう!